

県立新発田病院跡地活用市民検討委員会（第7回）会議録

と き 平成20年7月10日（木）午後7時から

ところ 新発田市役所（本庁舎）第2・第3委員会室

1 開会

2 説明 本日の進め方について

（馬場会長）

本で行っていただきたいことは、前回までの検討内容を踏まえ、基本テーマの組み合わせ検討を通じて付された条件（目的）を満たすために必要な機能は何か、更にはその機能を満たすうえで想定される施設イメージは何かについて検討していただきたい。まずは既に作成された私案をグループ内ですり合わせていただきたい。

今日は、今話した流れに沿って検討内容における妥当性の検証を前半で行い、後半では合意の得た各グループ案を全体会形式で共有するとともに、更なる妥当性の検証確認作業を行いたい。

なお、ここでご相談だが、市民検討委員会が当初予定していた前半概ね5回の検討委員会は既に7回目。本日の議論をもって、前半を終了する予定であったが、今日の検討委員会の検討結果を再度整理して皆さんに確認をとる必要があることから、もう1回、後日、会議を設けたい。この会議は、最終的には中間報告という形になるのだが、その確認をする会議である。報告書の作成に時間が必要なため、現在のところ31日（木）を目途としているが、日程調整のうえお集まりいただきたい。

それでは、まずはグループでの意見交換を開始願う。

3 整備イメージの検討（グループ意見交換・まとめ）

（グループに分かれ意見交換を開始）

4 整備イメージの発表・確認

Aグループ

【優先順位1】

（D委員）

Aグループ優先順位1だが、前段の「基本テーマの組み合わせ検討シート」で定義した内容にほとんど基づくものとなっている。

大きな変更点は「賑わい創出」の条件を「駐車スペースのみ」としたこと。

この案の骨子は「歴史・文化」の条件にある「新発田城（本丸）との一体的な活用を図ること」が前提であるという考えである。

施設イメージについては、ごちゃごちゃ書き過ぎたが、要は先に述べた「新発田城（本丸）との一体的…」ということが基本である。なお、ここで理解していただきたいのは、歴史・美術等の他に他施設から良いものがあればお借りして展示し、隣接する落谷虹児記念館、将来活用されるかも知れない白壁兵舎などと共に相乗効果が生み出されてくるものと思う。堀部安兵衛の誕生地がすぐ近くにあることから記念コーナーを設置して、刀や直筆の手紙とかそういったものを展示しても良いのではないかと考えている。

「生涯学習」については、新発田藩は全国的にも有名な好学な藩であったということから、それを検証しつつ新発田らしい生涯学習を構築していく。その方法論として「道学堂（新発田藩の藩校）の再興」などをしてみてはどうかと考えている。

「賑わい創出」についても同様に、どこにでもあるものではなく新発田らしいもので賑わいを生み出す必要があることから、単なるイベントではなく、記録に残っている大名行列、台輪巡行などしてても良いのではないかと考えている。

これらを実施する際に必要な施設は、その機能面で「複合利用」という考え方を基本に置いているため、臨機応変に活用できる施設をイメージしている。

（馬場会長）

それでは、今ご説明いただいた内容について、質問や今までの検討経緯との整合性に関するご意見を伺うが、まずは私から質問。

当該地に植える品種は桜などに限定するののか。

（D委員）

現在、本丸石垣上に根ざす桜は、樹齢やその樹勢から将来伐採される可能性がある。そうした時には、ここで植える桜が代わりとなるものと考えている。

（馬場会長）

「歴史・文化」の条件に「史実に忠実な…」とあるが、歴史はいつ頃を設定しているののか。

（D委員）

江戸時代である。

（馬場会長）

そうすると、江戸時代以外の歴史はどうなるのかという議論があると思うが…。その後陸軍病院が出来て…というものはどうなるのか。

(D委員)

「新発田城(本丸)との一体的な活用」という考え方からしても、当該地は二の丸の形状をそのまま残しており、指定史跡ではないものの文化財保護法の定めるところの城跡であるということは尊重しなければならない。そういう考えから時代設定をしている。

(馬場会長)

何故、今そのような質問をしたかという、Bグループの議論の中には「陸軍病院時代から存在する樹木を活かす」という議論もあった。歴史については他の時代も想定できる。従って、歴史=江戸時代と言い切ってしまうのかどうかということである。

(D委員)

分からなくはないが、やはり「新発田城(本丸)との一体的な活用」ということをメインに置いているので、江戸時代ということになる。

(馬場会長)

理解した。

次に、整備する施設イメージに関する確認だが、複合利用という観点から施設は一つと解釈している。そうした場合、「基本テーマの課題等検証シート(メリット・デメリット)」の検討時に、コストの問題についての議論があったはずだが、そのデメリットどうなったのか。

(D委員)

コストの問題は優先順位1に限らず、建設資金やランニングコストについては他事業においても掛かるものなので、敢えてデメリットとして議論する必要があるのかという議論があった。

(馬場会長)

しかし、全体で確認をした「基本テーマの課題等検証シート」におけるメリット・デメリット事項は度外視できないのではないかと。

(D委員)

一つの対処法として、国・県の補助等を活用すれば、市民のコンセンサスも得やすいのではないかと考えている。

(馬場会長)

もう一つ質問がある。

「門」に注力した理由は何か。「史実に忠実な…」という必要な機能があるとの案だが、想定する施設イメージにある大手中の門以外にも門は幾つかあると思われるが…。

(D委員)

「史実に忠実な…」となると、写真が残っているのは大手中の門しかない。復元には別方向からの写真が二枚以上ないといけないことから、今のところ大手中の門しかないと考えている。

(馬場会長)

他の委員からはご意見はないか。

(B委員)

大手中の門の復元場所は駐車場とは別の場所を想定しているか。

(D委員)

分かりやすく言えば、旧県立新発田病院駐車場入り口(交差点付近)を考えている。

(B委員)

旧駐車場入り口に位置し、大型バス等も通るものなのか。

(D委員)

そうではない。あくまで歩行者用の入り口となる。

(B委員)

それはお金を掛けても文化的価値のあるものに成りえるのか。百年後、新発田の誇れるものになるのか。文部科学省からも評価をいただけるものなのか。

(D委員)

伝統工法で復元すれば、間違いなく価値のあるものになると思う。

(馬場会長)

ここでは、コストが掛かることを前提として、その財源を補助金等に拠ることができるかどうかポイントになると思う。

(D 委員)

財源としては 1 ~ 2 か月前に示された「歴史まちづくり法案」がある。今までの少ない補助金ではなく、文部科学省や国土交通省、農林水産省などが手を取りサポートする内容のため、かなり有力なものであると考えている。

(馬場会長)

そこは技術的な問題になると思う。ただし、基本的には算定内容や対象条件などによって、自前分の支出が多くなるということが前提になる。1 / 2 補助といっても必ず 1 / 2 出てくるというものではない。それもポイントかと思う。

(D 委員)

そういった意味では、市の方でその時々で最も有力な補助金等は何かについて目配りをしていただきたいと考えている。

(B 委員)

新発田駅前ゲートの時同様、この案でいう門の復元は市民から批判を受けないのか。

(D 委員)

三階櫓を復元した時と同様という捉え方で理解して欲しい。従って駅前ゲートの時とは捉え方が違う。

(E 委員)

写真が二枚あるのが大手中の門とのことだが、もしも他の門等に写真があればそれらの方が価値があるということはないか。

(D 委員)

ともに価値あるものと思うが、やはり大手中の門だと思う。

(N 委員)

「史実に忠実な...」ということは営林署に移転いただくということになるのか。正確には現在営林署のある場所と思うが...

(馬場会長)

今のご発言からすれば、場所が「史実に忠実」ではなくて、物が「史実に忠実」ということか。図面上で元々あった場所に整備するわけではないということになるのか。

(D 委員)

正確な位置からは若干ずれるが、許容の範囲であると解している。場所、物等は「史実に忠実」と解せるものと思う。正確なものは発掘調査等しなければ分からない。それは具体的に計画する段階で必要となる検証であるため、今はそこまで議論する必要はないのではないか。

(馬場会長)

了解した。

他委員から、この案の論理性について質問や意見は他にないか。

(E 委員)

大手中の門は他に利用価値があるのか。複合利用という観点から何かあるのか。

(D 委員)

市民をはじめ、訪れた方が中に入り伝統工法を見て触れて学ぶことができる。どこでも造れば良いというものではなくて、当該地だからこそ価値のあるもの。従って、意義のあることと思う。このことを否定するのであれば、城下町としての意義を喪失するということにつながりかねないと思う。

【優先順位 2】

(I 委員)

Aグループ優先順位 2 だが、テーマは「市民が行きたい・居たくなる、そして安心・安全を与える空間」というもので、「行政サービス」と「歴史・文化」が大きな要素であり、そこに「防災」が付いた組み合わせ案からイメージしている。

前回もお話したが、基本的には窓口サービス等の公的サービス機能のある施設であって、かつ広いロビー等を有し、美術品等の展示もできる、そういった施設である。災害時にはロビーは一時的な避難場所ともなり、防災のための本部機能として転用されうるものである。災害時には、普段市民が行き慣れた場所であるその施設内に災害対策本部を置くことで有効性を発揮するものと考えている。

そういったイメージから「整備イメージ検討シート」では「通常時は市民が交流できる...防災拠点となる」との記載にしている。

あそこに行けば誰かに会える、対話できる、考え合える、そういった施設を想定している。

(C 委員)

窓口業務は現庁舎にもあるが、その関係をどのように考えているのか。

(I 委員)

現庁舎ではゆったりできる、会話できるスペースがない。

当該地である必要性については、元来、政を執り行う場所であったため、同様に当該地で市民がこれからの新発田について考え合う場所という捉え方をすれば理解できるのではないかと思う。

(H 委員)

Aグループの案では、現庁舎の窓口業務を一括して当該地に移転。現在各支所にあるもの(教育委員会等)を移動し、集約するなど再編が可能なのではないかと考えている。基本的には窓口サービスは当該地で終わることができるものとして想定している。

(I 委員)

補足説明だが、この案で想定する施設イメージの中にはNPO法人等の団体が交流を深めることのできる場という捉え方も含めたい。

(C 委員)

私は個人的にある団体に所属しているが、そういった会議室等はボランティアセンターなどにも結構ある。果たして必要かどうか...

(馬場会長)

この案は対市民向け窓口業務の集約施設であって、基本的には現庁舎との重複事務はないものとしてこの案を捉えていきたいと考える。

【優先順位3】

(A 委員)

Aグループ優先順位1とほぼ同様の考え方として捉えても構わないが、違いは「行政サービス」の有無。「自信と誇りを持ち、みんなが帰ってきたくような新発田になれば良い」との思いから、どうすれば自信が持てるようになるのかを考えた時、やはりその要素、新発田らしさは「歴史・文化」である。残せるものは残し、発信できるものは発信する。そういった考え方からこの案を作成している。

概ね、優先順位1に詳しく書いてあるので、重複する説明は控えさせていただくが、

整備にかかる財源確保については「歴史まちづくり法案」、「まちづくり交付金」等を市の方で良くご検討いただきたいと考える。

(馬場会長)

ご質問、ご意見は受け付けるが、まずは私の方から確認させていただきたい。

想定される施設イメージの数は幾つか。大きく分けて、各種復元(復原) 歴史博物館、城下町モール、駐車場の整備の4つとなるのか。そうすると、優先順位1案のいう複合施設(一つの施設)というイメージとは異なるが...

(A委員)

「歴史博物館」と「城下町モール」については複合の可能性がある。

(馬場会長)

他にはいかがか。

(質問・意見なし)

Bグループ

【優先順位1・2】

(E委員)

Bグループ優先順位1と2について説明する。

基本的には「菖蒲城と呼ぶにふさわしい城前庭園と歴史・文化、四季・風情を感じ、心潤い安らぎ、自然に足を運びたい緑化」とすべきとの案である。

今ある資源として、先にお話のあった陸軍病院等々の歴史もあることから、今現在残っているものも活かしていこうという考え方が前提にある。

お城に関連する復元等も行った方が良いとの意見もあるが、それらに連続性を持たず意味で表門前の道路のルート変更等も視野に入れた方が良い。

また、先にお話のあった白壁兵舎等についても、明治初期に造られたものであるため、城との一体感を阻害する場所に移転するよりは、元の場所のままの方が良いとも思う。むしろ、その中で明治～大正～昭和というものを展示するという方法が良いとも思う。課題は別にあって、三階櫓の場合においても自衛隊との兼ね合いから内部見学できないという状況がある。その課題を改善することもセットで検討すべき内容になると思われる。

同様に様々な時代背景のある歴史・文化が幾つもあると思うので、リストアップして優先順位を付けて活用していければ良いと考えている。

(馬場会長)

時間がなく、見切れていないかとも思うが、シートを見て思いつくところを言っていただきたい。

(H委員)

言わんとする骨子は何か。

(E委員)

城郭(表門)を背景にした菖蒲庭園が第一である。

次に、歴史資源の移転や復元、そして景観に配慮しながら目的を重視して機能を加味した施設の建築を行うという3段階により歴史的景観を作り出す建築物を利用すること。

更には、建築物の中身の充実ということで、新発田藩の歴史、物産、医学伝承、チャレンジショップといった機能を充実させるとともに、親切明快な案内板と交通網の整備を行う。

そうした構想はあるが、一言で言えば、基本は「菖蒲」にある。

(H委員)

今の案の「基本テーマの組み合わせ検討シート」には「全てに対してコストを掛けないあるいは掛けても回収できること」とあるが、その部分は整合性が図れているか。

(E委員)

菖蒲に関しては元々ある菖蒲の株分け等で対応できる。

他の歴史資源の移転、復元等に関してはコスト面を考慮しながら優先順位を付け、出来ることから少しずつ実施していけば良い。

まずはメインに菖蒲を、その次の建物は後々で良い。

(馬場会長)

今のご説明について他に何かなければ次に進みたい。

【優先順位3】

(C委員)

Bグループ優先順位1・2と違いテーマを絞り込んだものである。

基本は「緑化」によって「賑わい創出」することをイメージしている。そのためには新発田の「歴史・文化」を踏まえたもの、景観にマッチしたものが良く、それはあ

やめや桜の公園ということになるという案である。

「緑化」については、観光客を呼べる公園にしたいので、デザインされた緑化計画とすることが必要である。

「歴史・文化」については、新発田城に隣接するため「新発田城との一体感を感じるものとする」とを条件とし、景観に配慮する。

「賑わい創出」では、駐車場を設け来客者に対応するが、そのためにも道路案内やサイン等看板の整備が必要であると考えている。

(馬場会長)

元々の「基本テーマの組み合わせ検討シート」では、「緑化」における「防犯性・安全性の問題」というものが他のグループ案に比べてなかったがいかかが。

(C委員)

同様のイメージで捉えているので、同じく加えていただきたい。

(馬場会長)

そうすると、あやめ園的なものを整備するにあたり、必要な機能はあるか。

(C委員)

「デザインを考慮に入れ、周囲とのバランスの取れた防犯」としていただきたいことから、そうした照明や緑化としていただきたい。

(H委員)

説明の中で「観光客を呼べるあやめ公園」とあったが、4大あやめ園の一つは五十公野に既にある。あやめは季節のものでもあるため、観光客を果たして呼べるかどうか…。

(C委員)

五十公野はそれとして、より多くの方に楽しんでいただけたらと思っている。単なる「緑化」では維持管理費・コストがかかるだけであることも考慮した結果、この形となった。

(I委員)

そもそも、第1回市民検討委員会開催時に配布された庁内検討会報告書にある検討結果によれば「当該地は市民のため」とある。従って、「観光客を呼べる」ということを前面に打ち出すのはいかがなものか。あやめ公園自体は良いが、最初のスタンスは

崩すべきではないと考える。

(D委員)

歴史の経緯からあやめ城を前面に打ち出したいということではないのか。

(E委員)

おっしゃるとおり、基本的にBグループではあやめ城というものを前面に打ち出した案を作成している。また、市民が利用できるというスタンスのとおりでもあるので、説明にあった「観光客を呼べる」というのは「観光客を呼べるほどの」ということで理解して欲しい。

人が呼べるかどうかについては、品種によっては組み合わせにより四季を通じて楽しめる花であり、市の花としてまちなかにも常にあれば違ってくると思う。当該地に限って考えてみても城の前というロケーションから名実ともに真のあやめ城となり、4大あやめというより日本一を目指せば良いと考える。

(馬場会長)

そうすると、テーマの表現について意見が集中しているので、適切なテーマ名を次回までに検討いただきたい。それでは、Cグループの発表に移りたい。

Cグループ

(J委員)

Cグループ案のテーマとしては「緑と歴史・文化を背景とした誰もが利用できる美しい複合施設」、「お金の取れる緑地、百年記念新発田城公園」という二つがある。

「緑化」であるが、維持管理費や手間、防犯性・安全性の問題を考慮に入れ、植林方法や照明の効果的なプランニング、光源の選択によるコストダウンを図る、ランニングコストを抑える、環境に配慮するといった工夫を促し、結果、憩いの庭というイメージで見通しが良く、遊歩道、ベンチ、景観に配慮したオブジェ等のある緑地を想定している。植物については、記念樹を寄付等により提供していただく、花壇を設けコンクール等実施することを考えている。

次に「防災」であるが、通常は緑地及び駐車場。なお、駐車場は大型バスも入れるものとする。防火用水を兼ねた堀（調整池の機能も兼ねる）を整備し、他に施設を想定していることから、屋内、屋外の避難場所を想定している。また、施設には備蓄品を収納することも想定できる。結果として「水」を上手く利用できる設備・施設であれば良いと考える。

「歴史・文化」については、過去の歴史展示と現在のアートや美術品の展示、更に

企画展を行えるスペースを有した施設を設け、常設・企画双方の展示スペースを充実させリピーターを増やす。また、開かれた施設となるようPRの方法、コストを考慮した運営面の充実が必須であると考えている。武家屋敷の復原についてはN委員の方から説明いただく。

(N委員)

武家屋敷復原場所は辰巳櫓の隣、元県立病院医師住宅のあったところ(表門向かって左)が適切であるとする。

(J委員)

続けて「生涯学習」であるが、観光客から市民、学生にいたるまで下越、新発田の長い歴史文化、生活様式などを学習してもらい、ミニセミナーやミニ講演会などが可能な多目的スペースを設ける。

「賑わい創出」では、施設内外で行えるものとし、主体が様々でも積極的にイベント開催等を行える仕組みづくりを行い、リピーターを狙えるような好感度のある「賑わい創出」としたい。そのためには対応の良さをはじめ、駐車場、バリアフリーといった設備面の充実も必要である。なお、実施主体は民間とすべきとの意見もあった。

以上をまとめ、想定している施設イメージは何かと言うと「歴史博物館+美術館+市民スペース+ミュージアムショップ+地場物産+おみやげ+飲食+誰もが利用できるゆったりとしたロビー等を備えた施設」として、一つの施設を想定している。コストが懸念されるため、運営面においては市民やボランティアに多く関わっていただき、建設費についても市民が誇りを持って、次世代にも残せるしっかりしたものであれば、ある程度掛かっても理解は得られるものと考えている。一度に完成できないのであれば、徐々に...ということも視野に入れている。

(馬場会長)

では質問等いかがか。

(I委員)

まず「歴史・文化」における下越全体という理由と、リピーターを狙うということと料金の関係に係るイメージについてお尋ねしたい。

また、建てる一つの施設について「しっかりした」とあるが、その概念・イメージは。

(B委員)

下越中、阿賀野川以北の中で最も大きな都市として...という捉え方から新発田のみ

ならず下越における過去の歴史を知ることのできるような（例えば縄文時代のような）展示物を展示する施設をイメージしている。

料金については、当然施設自体の維持管理費も掛かることから有料を想定している。

（N委員）

なお、個人的には、料金は歴史博物館500円、駐車料金1日停めても500円、合わせて1,000円で十分楽しめるようなイメージを持っている。「しっかりした」については内部が鉄筋コンクリート製、外部は木造といったものを考えている。火事になっても中身は焼けず、外観はお城にマッチしたものである。参考までに…。

（I委員）

そうすると、下越というよりは阿賀北というイメージということか。

（N委員）

細かい展示をちまちまするのでなくて、下越全体というほどの気概の企画展を実施しようということである。

（B委員）

なお、歴史博物館の歴史だが、先ほどから「歴史＝江戸時代」というような案が大半と受け止めているが、例えば十日町市の火焰土器のように、更に古い歴史を扱ったりしてみても良いのではないか、自分達のルーツや生活様式を学ぶことのできるようなものがあっても良いと思う。そんな私の考えも踏まえてのことである。

（馬場会長）

そうすると、施設は二つというイメージか。

（J委員）

「水」を上手く利用できる施設としては、例として東京国立博物館法隆寺宝物館などを参考としたが、結果として、まずはお堀ということになった。それ以外の「歴史博物館～ゆったりとしたロビー等を備えた施設」は一つの施設をイメージしている。

（馬場会長）

つまり、お堀は防火用水ということか。

（B委員）

その通りである。そして歴史博物館の中には様々な機能を持たせるということ。

(馬場会長)

それから、もう一点質問。「備蓄品を施設の中に」という意見があったと思うが、それも歴史博物館の中に含まれる解釈してよろしいか。

(B委員)

その通りである。例えば天井裏に備蓄など…。

(H委員)

今の説明をお聞きして想像すると、これらの機能を満たす施設はかなり大きなものになるのではないか。例えば新潟にあるふるさと会館のようなもの。どれ位の博物館をイメージしているのか。

(G委員)

ここで話していたのは、全ての施設や実施内容が常設ではなく、適宜内容の入れ替えを行いながら、限りある施設内で多種多様な事業を実施しようというものである。

(H委員)

備蓄品のための収蔵庫はどうなるのか。相当なスペースが必要になることが想定されるが…。かなり大きな施設となりそうだが、そのことが景観に合ったものになるかどうか…。

それから、先ほどの説明の中に、同じ施設内において「適宜内容の入れ替えを行いながら…」とのことだが、受け手となる利用者の立場からすれば「一体あの建物は何なんだ？」ということにならないか。

(N委員)

半分は歴史博物館で常設。残り半分はイベントを主とした入れ替えできる多目的スペースを想定している。

(馬場会長)

そうすると、まとめるが、施設は外見では一つで、中身は「歴史博物館＋オープンスペース(多目的スペース)」というイメージであるということである。

(馬場会長)

それでは、今の発表内容に多少の修正・整理を加えたのちに、報告書という形にまとめ、後日皆さんにお示ししたい。報告書の作成には時間が掛かるため、次回の日程については後日事務局を通じてお伝えしたい。

本日の最後になるが、今日まで議論を重ねてきた幾つかの案は、必ずしも、その中から整備構想案として選ばれるというものではない。あくまで市の内部検討するにあたって、市長判断するにあたっての参考意見となる。多くの市民の方からいただいているパブリックコメントの意見も同様に参考とすることからも分かるように、我々が議論してきた内容やそれらの意見など全てを含めて市で検討していただく。そういったものであるということを再度理解して欲しい。

では、本日はここまでとする。

5 閉会